

荻外荘の史跡指定について

11月20日、文化庁は「文化審議会（会長 宮田亮平）」から、史跡名勝天然記念物や登録記念物、重要文化的景観の指定等について、文部科学大臣に答申がなされたことを発表しました。史跡名勝天然記念物の新指定8件の中には、杉並区が所有する「荻外荘」（近衛文麿旧宅）も含まれています。

荻外荘は、内閣総理大臣を3度務めた近衛文麿の旧邸宅であり、戦前の政治史において重要な会議（荻窪会談）が開かれたことでも知られています。敷地面積が6,071.69㎡で、貴重な屋敷林を今に伝えています。邸宅は、築地本願寺や明治神宮なども手掛けた伊東忠太の設計で、昭和2年に創建されました。その建物を昭和12年に近衛文麿が、入澤達吉（宮内省侍医頭）から別荘として購入したものです。「荻外荘」の命名は、西園寺公望（さいおんじきんもち）によるものと言われています。

杉並区は、荻窪の閑静な住宅街に残るみどり豊かで政治史的にも貴重な地とし、地域住民からの強い要望（平成24年6月）があった荻外荘の敷地及び建物を平成26年2月に取得し、平成27年3月には、敷地南側部分を暫定開放しています。また、近衛家に伝わる10万点以上の資料を所有・管理する公益財団法人陽明文庫（理事長：近衛忠輝・京都市右京区宇多野上ノ谷町1-2）と、荻外荘を文化財としての価値と昭和の記憶的な価値との両面から、整備・活用していくため、互いに協力していく覚書を結びました。

今回の国の史跡指定も、昭和前期に日米開戦前の国の方向性を決めた重要な会議が行われた場所として評価を受けています。こうした歴史的な価値や豊かな屋敷林を後世に引き継ぐため、今後の整備・活用については、文化庁とも協議をしながら進めていきます。



【問い合わせ先】

教育委員会生涯学習課：電話 03-3311-2111 内線 1666